

公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ 定款（抜粋）

（目的）

第3条 この法人は、地域の産業活力、地域の文化振興及び地域住民の健康福祉向上の実証研究、調査及び施策提言を行い、地域産業振興の為の施策並びに地域文化の伝統継承に貢献し、もって地域活力のための具体施策に取り組み、並びに多様化・複雑化する経営課題を解決するための中小企業に対する経営支援、及び地域文化の行催事の支援に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地域経済社会に貢献するための経済・政治・文化及びこれらの諸制度に関する調査研究並びに大学研究機関等と連携した共同の研究活動
 - (2) 伝統的日本文化の行催事等慣習・風俗・歴史の研究、保存及び伝承並びに地域の行催事支援
 - (3) 中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援業務
 - (4) 前3号の事業にかかわる機関誌並びに法人活動のための研究レポート等の刊行
 - (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、奈良県において行うものとする。

入会案内

行政への提言を含め、事業を力強く推進していくためには、会員の一層の事業参画と協力が不可欠です。そのため当公益社団法人では地域の活性化と文化の向上により寄与すべく常時会員を募集しています。会費は以下の通りです。

- 個人正会員 一口 10,000円、一口以上
- 団体正会員 一口 10,000円、三口以上
- 賛助会員 30,000円以上

ぜひ入会をご検討くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、手続き等の詳細は事務局にお問い合わせください。
(お問い合わせ) TEL: 0742-20-7807

当公益社団法人への寄附のお願い

当法人では、個人・法人からの寄附を募っています。
公益社団法人ならではの税の控除が受けられます。

当法人は、奈良県知事より2013年3月、公益性を有する組織として公益社団法人認定されています。そのため、当法人への寄附については税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。
■詳しくは税務署にお尋ねになるか、
国税庁のホームページ (<http://www.nta.go.jp/>) をご確認ください。

寄附については通常寄附と特別寄附があります。
特別寄附では使途や管理運営法を指定できます。

- (1) 通常寄附金
当法人の会員を含む広く社会一般に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。
寄附金額の50%以上を公益目的事業に使用します。
 - (2) 特別寄附金
上記寄附金のほか、個人または団体から受領する寄附金です。
寄附者が寄附金の使途及び管理運営方法に条件を付けることができます。
- (注) 金銭のほか金銭以外の財産権（有価証券等）を含みます。
なお、これらの寄附については当法人のHP (<https://www.s-s-l.jp/>) をご参照ください。

寄附のお振込先口座

南都銀行 西大寺支店 普通 2061041
振込先名義：シャ）ソーシャル サイエンス ラボ

お問い合わせ・お申し込み先

当公益社団法人 TEL: 0742-20-7807 E-Mail: info@s-s-l.jp

2021年度 活動報告書

公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

Contents

奈良新しい学び旅	2-4
地方創生カレッジ事業	5
SSL Forum	6
関西歴史文化首都構想研究会	7
中小企業者への経営支援	8
理事紹介	9-11

Theme

1 奈良SDGs学び旅

▶ 当公益社団法人は、持続可能な社会の創り手育成と県内観光産業の振興に向け、奈良を舞台とする新しい学び旅の企画・開発・発信に取り組んでいます。

2020年度にスタートした奈良SDGs学び旅事業も2年目となりました。今年度は2件の補助金(観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」、奈良県「既存観光拠点再生計画事業」)を活用し、

【1】奈良SDGs学び旅 既存3コース(東大寺コース、春日山原始林コース、ならまちコース)の

大人向けモニターツアー実施

【2】新コース開発と実証実験

【3】学び旅ガイドの育成

【4】学び旅シンポジウムの開催

【5】販促ツールの制作

等を実施しました。

奈良SDGs学び旅は、各コース共、奈良教育大学による「SDGs講義」と学び旅ガイドの育成研修を終えた観光ガイドによる「フィールドワーク」の2部構成となっています。既存3コースのブラッシュアップと販売強化を目指し、県内外9校(540名)を対象とした教育旅行向けと、一般募集の大人を対象とした大人向けの2種類の無料モニターツアーを実施・検証しました。

また、新コースの1つで、幼稚園～小学校を対象にした「奈良公園SDGs自然学校」では、タブレットを活用した新たなしくみにより学習効果の向上を図りました。

【1】既存3コースの大人向けモニターツアー実施

回	日程 参加人数	プログラム内容／実施風景
1	10月27日 11名	奈良SDGs学び旅 無料モニターツアー【ならまちコース】 参加者は、奈良まほろばソムリエの会の案内でならまちを巡り、町が持続してきた要因について学びました。 
2	1月6日 15名	奈良SDGs学び旅 無料モニターツアー【春日山原始林コース】 参加者は、春日野国際フォーラムにてSDGs講義を受講した後、春日山原始林で森林再生やシカの害害による課題などについて学びました。 
3	1月17日 18名	奈良SDGs学び旅 無料モニターツアー【東大寺コース】 東大寺をSDGsの視点で見ることで、何度が足を運んでいるという参加者にも新たな発見が多くありました。フィールドワーク前のSDGs講義では、修二会に参加した奈良教育大学の体験談を聞きました。 

【2】新コースの実証実験

回	日程 参加人数	プログラム内容／実施風景
1	10月23日 11名	奈良公園SDGs自然学校【シカと糞虫が織りなす循環】 中村探検隊長(ならまち糞虫館：館長)の案内のもと、奈良公園に生息する糞虫「ルリセンチョコガネ」を探し、その役割や自然の循環について学びました。 
2	11月7日 18名	奈良公園SDGs自然学校【シカと暮らすまちの歴史】 渡邊探検隊長(奈良教育大学：社会学教授)の案内のもと、春日大社やならまち・奈良公園を散策し、シカと共存してきた先人たちの知恵を学びシカとの今後の共存方法について考えました。 
3	11月21日 9名	奈良公園SDGs自然学校【春日山原始林のいま】 杉山探検隊長(春日山原始林を未来へつなぐ会：事務局長)の案内のもと、春日山原始林の生態系が乱れている問題や、シカが森に与える影響について学びました。 

【3】学び旅ガイドの育成

回	日程 参加人数	プログラム内容／実施風景
1	7月19日 95名	奈良SDGs学び旅 ガイド育成セミナー・基本編 奈良教育大学にて、中澤静男教授(当公益社団法人理事)より「奈良の歴史文化遺産から学ぶSDGs」、大西浩明特任准教授より「主体的な学びを引き出す手法」の講演を頂きました。 
2	8月3日 41名	奈良SDGs学び旅 ガイド育成セミナー・対話スキル向上編 奈良商工会議所にて、笑い飯哲夫氏よりお客様を案内する際にももしろおかしくコミュニケーションするコツをレクチャー頂きました。哲夫氏を客に見立てたガイド練習も行われるなど、中身の濃いセミナーとなりました。 
3	10月29日 17名	奈良SDGs学び旅 ガイドセミナー・実践編【春日山原始林コース】 学び旅の案内経験者が新規受講者を案内する本セミナーは、SDGsの視点での案内スキル向上を目的としています。当日は、「春日山原始林を未来へつなぐ会」のガイドの案内のもと、学びを引き出すコツやSDGs視点の見つけ方を学び合いました。 
4	11月24日 23名	奈良SDGs学び旅 ガイド育成セミナー・実践編【東大寺コース】 「なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀」のガイドの案内のもとセミナーを行いました。参加者同士で活発な意見交換が行われ、案内する際の視点の工夫など多くの学びを得ました。 
5	12月22日 28名	奈良SDGs学び旅 ガイド育成セミナー・実践編【ならまちコース】 「なら・観光ボランティアガイドの会 朱雀」のガイドの案内のもと、元興寺を中心にならまちのSDGsを伝える工夫を学び合いました。 
6	1月12日 15名	奈良SDGs学び旅 ガイドセミナー・ふりかえり編 2回の座学と3回のフィールドワークで得た学びや気づきを参加者同士で共有しました。また、案内時の理想のカタチや大切にしたい事について考えるワークショップも実施しました。 

回	日程 参加人数	プログラム内容／実施風景
4	11月28日 19名	奈良公園SDGs自然学校【奈良のごみ・地球のごみ】 本田探検隊長(国連環境計画：プログラムオフィサー)の案内のもと、奈良公園バスターミナルから春日野園地まで歩き、落ちているごみを撮影・清掃しました。フィールドワーク後の振り返りでは、ごみの写真を共有し、何をもってゴミと認識しているのかについて意見交換しました。 
5	12月10日 5名	奈良墨の歴史が紡いだ多彩な書の文化を学ぶ旅 西ノ京コース1 薬師寺の伽藍見学と写経体験・墨運堂・墨の資料館見学。その後、北山先生(奈良教育大学：書道科准教授)から仮名文字の歴史や未来についてお話を聞き、文字を書く体験も行いました。 
6	12月18日 12月20日 4名	飛鳥京と平城京を古代星座でつなぐ 世界遺産周遊型モニターツアー 星や歴史ロマンをテーマに、明日香村・奈良市を周遊するモニターツアーを実施しました。明日香村では昼間のサイクリングと夜の四神館での星プログラム、奈良市では平城宮跡での木簡体験と東大寺トワイライトツアーを行いました。 
7	1月21日 8名	奈良墨の歴史が紡いだ多彩な書の文化を学ぶ旅 ならまちコース1 奈良まほろばソムリエの会案内による興福寺見学、古梅園での墨づくり見学とにぎり墨体験を行いました。午後は、杉岡華卯美術館にて秋山先生(帝塚山学院大学：講師)による仮名文字の講義とオリジナルのカレンダーづくりを体験しました。 
8	1月22日 8名	奈良墨の歴史が紡いだ多彩な書の文化を学ぶ旅 西ノ京コース2 墨の資料館・前田館長より奈良墨の歴史と抱える課題についてレクチャーを受けました。その後、墨インクアーティストのクリスティン・フリント・サト氏による墨をインクとして扱い作品を作り上げるワークショップを体験しました。 
9	1月23日 13名	奈良墨の歴史が紡いだ多彩な書の文化を学ぶ旅 ならまちコース2 興福寺見学の後、松前旅館にて書家の桃蹊氏によるカリグラフィーを体験しました。 

1 奈良SDGs学び旅

【4】学び旅シンポジウムの開催

2022年2月17日、奈良公園バスターミナルにて、奈良の地場産業である「奈良墨」を持続させブランドとしての認知を広げるためのシンポジウム「奈良墨の歴史と多彩な書の文化を未来へつなぐ」を開催しました（来場者：78名／オンライン参加者：約70名）。

千年を超える歴史と質の良さを誇る奈良墨の伝統を守り続けてきた職人や匠、奈良墨の持つチカラに魅せられ多彩な活動続ける書家やアーティストたちが一堂に会し、奈良墨の新たな未来を語り合いました。

最後に、奈良新しい学び旅推進協議会の峯川郁朗会長より、今年度造成された墨がテーマの「奈良墨の歴史と多彩な書の文化を学ぶ旅」4コースの紹介が行われました。



- 第1部 オープニング・コンセプトムービー上映
「奈良墨の歴史と多彩な書の文化」
- 第2部 基調対談「奈良墨の価値を未来へつなぐ」
登壇者：松寿堂代表 森 克容 氏
奈良教育大学教授 谷川 雅夫 氏
- 第3部 アーティストトーク
「墨の魅力を多彩に！世界へ」
登壇者：書家 桃蹊 氏
Sumi Ink Artist クリスティン・フrint・サト 氏
妖怪書家／書家 逢香 氏
- 第4部 奈良SDGs学び旅2022
新商品プレゼンテーション「奈良墨の歴史と多彩な書の文化を学ぶ旅」4コースの紹介

第1部
オープニング・コンセプトムービー第2部
基調対談第3部
3名の墨アーティストによる
アーティストトーク第4部
新コース紹介

【5】販促ツールの制作

奈良発祥の伝統的地場産業である墨をPRするべく、「奈良墨（製墨）」と「多彩な書の文化」をテーマにしたオンデマンド動画を制作しました。

奈良の代表的な歴史・自然景観を背景にパフォーマンスを繰り広げる3人の墨アーティストや、400年以上続く老舗の墨屋工房で働く職人の方々が登場します。「学び旅シンポジウム」ではオープニングムービーとして上映されました。今後は、学び旅関連のイベントや奈良の観光PRイベント等で上映する他、公式サイトやYouTube、SNS等、広く国内外に発信していきます。



オープニングタイトル



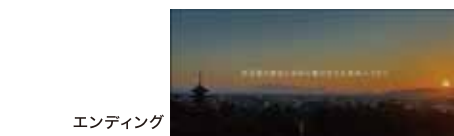
出演者の方々



株式会社古梅園の墨職人



松寿堂代表 森 克容 氏



エンディング

株式会社墨運堂内
がんこ一徹長屋 前田 定道 館長

書家 桃蹊 氏



書家/妖怪書家 逢香 氏

Sumi Ink Artist
クリスティン・フrint・サト 氏

2 地方創生カレッジ事業

当公益社団法人は、この度内閣府より地方創生カレッジ事業を受託、「地方創生カレッジ in 奈良～地域の観光資源をSDGsの視点で磨き直す～」に取り組みました。
(主催：公益財団法人 日本生産性本部／共催：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ)

【1】ビデオライブラリー 地域で学ぼう SDGs ①～⑤

過去、現在、そして未来へとつながる奈良の歴史文化遺産の価値と魅力について、有識者がSDGsの視点で対談、計5本の対談動画を地方創生カレッジ公式 Web サイトへ掲載しました。

No.	対談者・司会	テーマ・概要	QRコード
①	対談者：奈良新しい学び旅推進協議会 会長 峯川 郁朗 氏 奈良教育大学 名誉教授 長友 恒人 氏 司 会：奈良教育大学 ESD-SDGs センター長/教授 中澤 静男 氏 (当公益社団法人理事)	【奈良SDGs学び旅の開発背景と実践手法】 観光業の課題を解決し、持続可能な社会の作り手を育てる「奈良SDGs学び旅」とは。	
②	対談者：伝統を未来につなげる会 会長 工学院大学 理事長 後藤 治 氏 元建設省河川局長 尾田 榮章 氏 司 会：奈良新しい学び旅推進協議会 実行委員長 川井 徳子 氏 (当公益社団法人専務理事)	【国づくり・まちづくりの歴史から学ぶSDGs】 奈良に残る多くの歴史的建築遺産は、優れた土木技術と人々の協力の賜物である。	
③	対談者：東大寺教学執事 上司 永照 氏 元春日大社権宮司/奈良県立大学 客員教授 岡本 彰夫 氏 司 会：フリーアナウンサー 三代澤 康司 氏	【地域の歴史文化・祭礼・暮らしから学ぶSDGs】 奈良には歴史の断絶がなく、人から人へ伝えられてきた生きた儀式、行事がある。	
④	対談者：奈良教育大学 教授 劉 麟玉 氏 奈良女子大学 名誉教授 松岡 悦子 氏 司 会：奈良教育大学 准教授 河本 大地 氏	【持続可能な社会・いのちをつなぐ】 地域や社会が産と育児を考え、支えていくことが地方創生につながる。	
⑤	対談者：イベント学会 副会長 福井 昌平 氏 奈良新しい学び旅推進協議会 実行委員長 川井 徳子 氏 (当公益社団法人専務理事) 司 会：フリーアナウンサー 三代澤 康司 氏	【2025年大阪・関西万博に向かって】 大阪・関西万博に向け、関西の歴史文化を学び体験するチャンス到来。「奈良SDGs学び旅」はその先駆け！	

【2】オンラインセミナー＆ワークショップ

2022年3月、5本の動画を視聴した奈良教育大学の学生と観光ガイドが、曽爾村・明日香村でSDGsのタネを探すフィールドワークを行い、その成果をオンラインで発表しました。

「地域のSDGsのタネを見つけるフィールドワーク 曽爾村編」					実施日時：2022年3月2日(水)～3日(木)
漆塗りの拠点・ねんりん舎	獅子舞保存会のお話	曽爾高原の散策	農家さんの農体験	役場前にて副村長と	

「地域のSDGsのタネを見つけるフィールドワーク 明日香村編」					実施日時：2022年3月5日(土)
ベテランガイドとの交流	村内は自転車移動	明日香法がもたらすものとは	古民家再生のハイオニアと	後場での振り返り	

「地方創生カレッジ in 奈良 オンラインセミナー＆ワークショップ」					実施日時：2022年3月18日(金) 会場：奈良教育大学、曽爾村役場、明日香村立中央公民館 発表者：福井 昌平氏(イベント学会副会長)、中澤 静男氏(奈良教育大学教授、当公益社団法人理事) 奈良教育大学ESDティーチャープログラム履修学生6名・奈良まほろばソムリエの会ガイド2名 視聴者：曽爾村関係者10名、明日香村関係者7名、外部視聴者15名
オンライン書籍1/福井昌平氏 「地方創生の起爆剤」	オンライン書籍2/中澤静男氏 「地域の歴史文化・伝統産業から学ぶSDGs」	フィールドワーク報告1 「曽爾村で学んだSDGsのタネ」	フィールドワーク報告2 「明日香村で学んだSDGsのタネ」		

Theme 3 SSL Forum(エス・エス・エル フォーラム)

▶ 当公益社団法人は、社会が抱える諸問題を構造的に深掘り・発信するべく、社会科学の専門家による自由闊達なWeb対談を開催・運営しています。

当公益社団法人は、2019年度に実施したMMT研究会(Modern Monetary Theory：現代貨幣理論)を通じ日本経済活性化への提言活動を展開しました。昨年度はその成果を踏まえ社会の諸問題をテーマとする専門家Web対談とSNSへの対談動画配信を担う「SSL Forum」事業を立ち上げました。社会科学の各分野の専門家によって社会を構造的にとらえることで、その諸問題と解決方向を深掘りして発信していくことを目指しています。

そして、コロナからの経済回復がままならない今年度も引き続き「SSL Forum」を実施することにしました。折しも衆議院議員選挙の年でもあり、奈良県選出の国会議員を交え、アフター・コロナにおける日本の経済政策について対談いただきました。

対談回	対談者・司会	テーマ	QRコード
第1回 2021年 7月7日	衆議院議員 高市 早苗 氏 明治大学政治経済学部准教授 飯田 泰之 氏 (当公益社団法人 理事)	美しく、強く、成長する国、SMART NIPPON 「afterコロナの日本経済と政治」 第1部「経済～コロナショックからのV字回復に向けて、対策と補償、これまでとこれから」	
		第2部「地方再生～地域経済の立て直し～」女性の活躍	
		第3部「地方再生～地域経済の立て直し～」医療と介護、省庁再編	
		第4部「経済的安全保障」	
		第5部「国際社会と日本」	
第2回 8月18日	衆議院議員 馬淵 澄夫 氏 立命館大学経済学部教授 松尾 匡 氏 当公益社団法人 専務理事 川井 徳子 (聞き手)	地元政治家に聞く「afterコロナの日本経済と政治」 第1部「今こそ消費税減税が必要だ。野党結集をはかる時」	
		第2部「マクロ経済政策の転換点と世界の潮流について」	



【第1回対談】高市 早苗 氏 vs 飯田 泰之 氏



【第2回対談】馬淵 澄夫 氏 vs 松尾 匡 氏

また、これらWeb対談の内容を核に様々な専門家の知見も加え、コロナ禍で危機的状況にある観光産業の再生に向けた政策提言書を作成し、政府関係省庁や奈良県内の自治体等関係機関に向け提言活動を行いました。

当公益社団法人は、今後も「SSL Forum」を通じ、社会的問題とその解決方向を科学的・構造的に深掘り・提示することで日本経済や社会の活性化に貢献することを目指していきます。コロナ禍からの早期回復は言うに及ばず、今後の経済成長に資する政治経済学の調査研究等にもアプローチを試みる予定です。

Theme 4 関西歴史文化首都構想研究会

▶ 当公益社団法人は、奈良をはじめとする関西が有する圧倒的な歴史文化力を活かし、観光・イベント産業の復活と更なる発展へと繋げるための調査研究活動を推進しています。

関西は、かつて日本の首都として栄え、今も世界遺産をはじめ数多くの有形遺産や無形文化遺産の宝庫となっています。関西が日本の「歴史文化首都」といわれる所以ですが、近年の相対的な地盤沈下に伴い関西の観光・イベント産業は苦戦を強いられています。

一方、2025 年に大阪・関西万博が開催されます。この万博を絶好の機会と捉え、圧倒的な歴史文化力を武器にSDG s の視点をも盛り込んだ新たな体験価値を創造し、観光やイベントに落とし込み国内外に広く発信することで、関西の観光・イベント産業の復活へと導くことが強く求められています。

このような背景のもと、イベントの新たな社会的・経済的・文化的価値の探求を趣旨に活動するイベント学会は、関西歴史文化首都構想研究会(正式名称:“関西万博”を見据えた、「関西歴史文化首都構想」の推進をはかる研究会)を発足させました。当公益社団法人は研究会推進の中核組織として、有識者講演による「歴史文化首都」関西の魅力と課題を共有するための下記研究会の開催を支援しました。

研究会	開催日	講演者	テーマ
第0回	2021年 7月8日	イベント学会副会長 福井 昌平 氏	「関西・歴史文化首都」プロジェクトと「2025大阪・関西万博」
第1回	8月23日	明治大学政治経済学部准教授 飯田 泰之 氏 (当公益社団法人 理事)	イベント・観光産業 コロナ禍からの回復に向けて
第2回	9月27日	一般財団法人 関西観光本部 デジタルマーケティング室 室長 桑原 宗久 氏	“2025”に向けた3つの挑戦 ～KANSAI=訪れたい渡航地～
第3回	11月30日	独立行政法人 国立文化財機構 アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI) 所長 岩本 渉 氏	有形文化遺産と無形文化遺産



【第0回研究会】福井 昌平 氏講演



【第1回研究会】飯田 泰之 氏講演



【第2回研究会】桑原 宗久 氏講演



【第3回研究会】岩本 渉 氏講演

当公益社団法人は、本研究会の成果を受け、来年度以降もフォーラム等を通じ「歴史文化首都」関西の魅力発信に務めます。とりわけ、奈良県に活動拠点を置く公益社団法人として、県内自治体や関係機関等と連携しながら、奈良の歴史文化資源の新たな魅力と価値の発信に精力的に取り組み、県の基幹産業である観光関連産業の復活と発展への貢献を目指します。

Theme

5 中小企業者への経営支援

当公益社団法人は、県内の中小企業や小規模事業者の経営基盤強化に向けた支援を行ってきましたが、とりわけ、コロナ禍で業績を著しく悪化させている事業者へのきめ細かな経営サポートを強化しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残る年となりました。コロナ禍で苦しむ中小事業者が現在の事業環境を前向きに捉え、再起と飛躍を図るための支援を1年通じて行ってきました。認定計画策定が2件(事業継続力強化計画2件)、補助金申請分含む経営計画策定が32件(事業再構築補助金11件、ものづくり補助金2件、小規模事業者持続化補助金19件)となりました。

今年度は経済産業省の大型補助金である“事業再構築補助金”が始まり、数多くの申請支援の対応をさせていただきました。当法人への相談が多かった業種は、宿泊・飲食と美容サービスでした。また、国のデジタル化方針に沿って、デジタルを活用した無人サービスを取り入れた案件を数多く事業計画として取り扱いました。

今年度、当公益社団法人が支援し、事業再構築補助金及び小規模事業者持続化補助金の事業者として採択された県内の事業者は以下のとおりです。

●事業再構築補助金			
公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第1回	奈良市	(株)地域活性局	ウイズコロナ時代に立ち向かえ！総合観光業への新分野展開
第2回	奈良市	ショートライン	無人入退館を取り入れたレンタルワークスペースへの挑戦
第3回	生駒市	(株)ドルチェ・クオーレ・ジャパン	FCからの脱却！国産小麦を使用した無添加食パンのEC販売事業
第3回	奈良市	ブライントンティールーム/Jump the Gun	イギリスの“住”に焦点をあてた事業への新分野展開
第3回	奈良市	オンワ	グルテンフリーの新商品を軸に製造業へ業種展開に挑む
第4回	東吉野村	観光旅館杉ヶ瀬	老舗旅館が挑む！地元食材を活かしたフレンチの新分野展開
第4回	奈良市	(株)春	春ブランドの知名度を活用したFC事業とEC販売への挑戦

●小規模事業者持続化補助金				
事業類型	公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
一般型	第5回	奈良市	谷知毅税理士事務所	積極経営で顧問先を救う！若き税理士の使命
	第5回	奈良市	(株)地域活性局コンソーシアム	古都・京都・奈良で育まれた伝統産業の展示販売会事業
	第5回	生駒市	ミズエ	日本の美と健康を民間療法で解決する 刮痧専門店の開業
	第6回	奈良市	M's フィットネスクラブ	コロナの逆風に立ち向かうための広報力強化策の実施
	第6回	奈良市	オンワ	奈良から全国に向けたギフト商品としてのカヌレの開発
	第6回	奈良市	うぶすな	デザイン力を活かした受けから攻めへの営業スタイルへの転換！
	第6回	奈良市	(株)地活提言コンソーシアム	東吉野の遊休地をECサイトで有効活用させる地域活性化事業
低感染リスク型	第3回	奈良市	(株)ロワソブリュ	味も雰囲気も本格的なベトナムスイーツのキッチンカー展開
	第3回	奈良市	(株)絆	薬学専門家によるプロテイン・資格取得支援事業への新たな挑戦
	第4回	奈良市	天迦久珈琲	コロナに立ち向かう珈琲と高級食パンのオンライン販売事業
	第5回	奈良市	合同会社 knot	新鮮なキノコでコロナに打ち勝つ！農園併設の無人直売所開設

コロナからの通常生活への回復も一部見られるようになる中で、次年度も中小事業者の事業再構築や事業再生、創業支援といったことを中心とした経営支援活動を行っていきます。

Theme

6 理事紹介



理事長
日置 弘一郎
ひおき こういちろう

＜経歴＞
京都大学名誉教授、鹿児島大学客員教授、広島大学客員教授。1972年京都大学経済学部卒、1977年大阪大学大学院経済学研究科後期課程中退。茨城大学社会科学部助手、京都学園大学(現京都先端科学大学)講師を経て、1983年九州大学助教授、1992年京都大学助教授、1999～2015年京都大学経済学研究科・経済学部教授。2015年鳥取環境大学経営学部教授、2018～2020年就実大学経営学部教授を経て、現在に至る。近著として、鹿児島大学稲盛アカデミー叢書第二巻「利他の構造」を奥野明子らと執筆しミネルヴァ書房から刊行、東洋経済新報社「人材育成事典」項目執筆。所属学会は、経営人類学会、しごと能力研究学会。

＜活動・研究内容＞
専門は、組織論、経営人類学。社会の中での企業の役割を考えることが研究テーマの中心としている。

ものづくりについてのビジネスモデルの多様性を分析する事業創成という学問を考えた。また、企業と他の社会的主体(家庭や地域社会、他の事業主体など)との共生を考える共生経営という領域を提唱している。さらに、国立民族学博物館の共同研究として経営人類学という理論領域を作り出し、20年以上継続して研究している。

一方、九州大学在籍時に福岡県の水産物付加価値向上委員会の委員長を務め、水産物への関心は高い。また、旅館の女将さんの研究にかかわるなど地域経済や地域経営といった領域でのテーマについて関心を持つ。さらに、最近は産業集積に関心を持ち、単一の企業を最適化するというこれまでの経営学ではなく複数企業の相互最適化という枠組みで経営学を再構成するというしごとを志している。



専務理事
川井 徳子
かわい のりこ

＜経歴＞
1981年立命館大学(文学部西洋史学専攻)卒業。国立博物館評議員。創業の地である奈良県を中心に、西日本でホテル経営などの観光・宿泊事業、物流事業、不動産事業を幅広く展開しているノブレスグループの代表。近代日本庭園「植治の庭」の再生に貢献。著書に『不動産は「物語力」で再生する』(東洋経済新報社)などがある。造園技術学会発行の学術誌に独自の分析を踏まえた「庭園・邸宅ビジネスの可能性」についての論文を寄稿。2020年11月観光庁の実証事業の採択を受け、奈良教育大学を中心に、県、市と協力し、奈良でSDGsを学ぶ「奈良新しい学び旅推進協議会」を立ち上げる。主な所属学会は、日本経済学会、日本造園学会、日本ESD学会、イベント学会。

＜活動・研究内容＞
日本ではSustainableだけを追求しDevelopmentを忘れて30年が経ちました。

2000年から経済成長について金融・財政政策の転換を促す活動をしており、金融政策はアベノミクスから国際標準の政策を採用し始め、正常化に近づいています。一方、財政政策は均衡主義からの脱却が図れずにいます。2018年度に行ったケルトン招致活動は日本社会に影響を与えましたが、中央官庁の財政均衡主義は強固なままです。奈良SDGs学び旅は地域の観光振興策ですが、SDGsの視点で日本史のグローバル化を図る活動でもあります。重要なのはフローデルが始めたアナール学派の基本書『歴史入門』に記されている「一人当たりの国民所得の変動を追跡する」ことにあります。

アンガス・マディソンは『世界経済の成長史1860～1990』において極めて精緻な数字を積み上げ、これに成功しました。国際社会のコンセンサスとして、MDGsに結びついたといえるかもしれません。

経済成長史が国際標準の歴史であると日本国民がわかれば、新井白石ではなく田沼意次が評価されると考えます。万博を目標に日本史のグローバル化に注力したいと考えています。



理事
飯田 泰之
いいだ やすゆき

＜経歴＞
明治大学政治経済学部教授。1975年生まれ。東京大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。駒澤大学を経て現職。内閣府経済社会研究所客員研究員、財務省財務総合政策研究所上席客員研究員、内閣府規制改革推進会議委員等を歴任。所属学会は、日本経済学会・日本経済政策学会・地域活性学会。

＜活動・研究内容＞
マクロ経済学と地域経済の相互関係について研究をしている。昨年は、サーベイデータを用いた復興増税への世論形成、ハローワークデータを用いた都市圏における最低賃金上昇が雇用に与える影響について論文を執筆した。両論文ともに今後議論が進むであろうコロナ後の経済政策について、その政治経済学的な側面を検討するための資料となりうと考えている。現在の関心事は、財政再建や増減税に関する世論形成がどのようにして行われるかについてメディアの役割に注目した研究を進めている。また、本年度は地方銀行・信用金庫の預貸率の決定要因について地域特性からの影響を中心に計量的な分析をすすめていきたい。



理事
馬場 正哲
ばば まさあき

＜経歴＞

株式会社地域計画建築研究所顧問兼主席研究監。1973年関西大学工学部建築学科卒業、同年株式会社地域計画建築研究所(アルパック)入社。取締役計画部長・総務部長・副社長を経て現職。地域計画とともにニュータウン計画、市街地再開発・都市開発プロジェクト、地域・産業・観光・文化振興計画、市街地・環境・景観整備計画、建築・ランドスケープ計画を担当。技術士、一級建築士、一級造園施工管理技士、再開発プランナー、元認定都市プランナー、マンション建替えアドバイザー。(一社)再開発コーディネーター協会、(公社)日本建築家協会、(一財)日本グラウンドワーク協会に所属。著書：都市再生・街づくり学～大阪発・民主導の実践～(創元社(大阪市街地再開発促進協議会編・共著)などがある。所属学会は、日本都市計画学会、日本建築学会、日本観光研究学会。

＜活動・研究内容＞

まちづくりの根本は、地域が健全に地域を統治(ガバナンス)する意識と仕組みができていることだと考えます。かつての日本には合議による地域運営が培われていたといわれます。しかし、明治維新の富国強兵の中央集権・国家高権、敗戦による復興・経済成長最優先や一極集中、グローバル化などの混乱を背景に、地域での主体性が曖昧模糊となり、健全な国家の土台が揺らいで久しい。今日漸く、官から民へ、市民が地域を担う時代が求められるようになり、このことも混乱の課程でもあります。大事なことは、ネットワーク型まちづくりの仕組みを息づかせることと考え、生命体のシステム(三つの系)をまちづくりに構築することを実践的に考えています。①神経系：地域自治の体制を構築／自治会等の再生／市民の自覚／行政の改革(アウトリーチ) ②免疫系：ネットワークの構築／多様な活動の連携・情報の共有・学習機会の共有 ③中枢系：地域理念の堅持／構想をもつ／「造化」の再生(万物生成、創造変化、自然、創造化する：列子「周穆王篇」)を目指しています。



理事
岩井 洋
いわい ひろし

＜経歴＞

帝塚山大学全学教育開発センター教授。1991年上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。帝塚山大学経済学部教授、同副学長を経て、2012年より同学長、2017年から2021年まで文学部教授、2021年より現職。日本宗教学会理事、地域デザイン学会特命担当理事、奈良地域デザイン研究所理事、奈良シニア大学学長。専門は、宗教社会学、経営人類学。著書に『大学論の誤解と幻想』(弘文堂)、『現代社会を宗教文化で読み解く』(共著、ミネルヴァ書房)、『キャリアデザイン』(共著、弘文堂)、『アジア企業の経営理念』(共著、文真堂)などがある。所属学会は、日本宗教学会、地域デザイン学会、国際宗教学会、韓国日本近代学会など。

＜活動・研究内容＞

地域社会への貢献活動としては、「五條市地域・産業ブランド推進協議会」の座長をつとめ、同市における地域商社の運営を支援している。地域社会貢献に関わる研究活動として、世界や日本における奈良の歴史文化的位置づけを明らかにする「奈良学」研究を推進するとともに、産官学が連携する研究プラットフォームとして「経営人類学研究会」を主宰している。特に「奈良学」研究においては、未完成のまま計画が中止された「未成線」である、「五新線」(五條市内)の歴史学的研究と、その産業遺産としての利活用についての実践的研究をすすめてきた。また、奈良シニア大学で学長をつとめ、奈良校、橿原校とともに東京にサテライト校を開設し、シニア層に学びの機会を提供している。奈良の観光資源に関わる研究として、「道の駅」ツーリズムについて研究中である。



理事
田中 俊行
たなか としゆき

＜経歴＞

2005年同志社大学文学部美学芸術学科卒業。大学在籍時には、華道史といけばなの定義についての研究を行う。大学卒業後は、野村證券株式会社に8年間にわたり、地域優良法人やそのオーナーなどに対し、新規開拓営業を中心として金融商品や不動産、企業買収など幅広い資産管理の提案業務に従事。2013年に野村證券を退職後、2016年まで一般財団法人池坊華道会において池坊に所属する400支部14000名の先生方が個人で運営するいけばな教室への運営サポートを行う。2016年から自身の両親が運営するいけばな教室を引き継ぎ、流派内の同世代では最も多い100名弱の門弟を抱えて活動している。2021年より中小企業診断士として活動。

＜活動・研究内容＞

私は日本文化の将来にわたる持続維持を研究テーマとしています。日本の伝統芸能の多くは生活文化に根付くものがほとんどです。仏前供花より始まったとされる日本のいけばな文化はバブル前に門弟数が最盛期を迎え、その後は減少の一途をたどっています。私は現在、流派内の同世代では最大の門弟数を抱えていますが、そのような環境にあるからこそ、いけばなをどのようにして今後の社会の中で持続維持可能な存在にしていけるかを日々考えております。また、日本の文化や伝統芸能に内在する美学や哲学を抽出し、それをA I全盛の現代社会において活用していくことも今後は重要になると思っています。私は当公益社団法人内において、2020年度より県内の中小企業支援の担当理事として活動を行っています。COVID-19の影響により先行きの見えない事業環境の中、社会変化に対応しようと努力を重ねておられる事業者様がたくさんおられます。当公益社団法人としましては県内の中小企業様が現在の環境を乗り越え、新しい発展の道を歩んで行かれるお手伝いを1社でも多くできればと考えています。



理事
中澤 静男
なかざわ しずお

＜経歴＞

1982年立命館大学文学部史学科卒業。奈良県内の小学校に勤務するかたわら、社会科教育について研究し、2004年奈良教育大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程を修了。奈良市教育委員会指導主事を経て、2011年より現職(奈良教育大学教育連携講座教授、ESD・SDG sセンター長)。所属学会は、日本ESD学会、日本国際理解教育学会、日本環境教育学会、全国社会科教育学会、日本社会科教育学会、産学連携学会

＜活動・研究内容＞

ロシアによるウクライナ侵攻は、ヨーロッパを戦場とした世界大戦にも発展しかねない。第2次世界大戦後の1946年に2度と戦争の惨禍を繰り返さないようにとの願いを込めて、国際連合の専門機関として創設されたユネスコのユネスコ憲章の前文「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」の言葉の重みが増すばかりである。SDG sも大切だが、誰一人取り残すことなくすべての人が幸せに生きることができる持続可能な社会の達成には、SDG sの達成に能動的に参加・協力する多くの市民が不可欠である。そのような市民を育成する教育が、私が研究しているESD(持続可能な開発のための教育)である。ESDを適切に計画し指導できる学校教員を養成するためのESDティーチャープログラムを開発し、全国でまたオンラインも活用しながらESDに関する研修会を開催するとともに、SSLと連携して、奈良の観光をSDG sを学ぶ旅に変革する「奈良新しい学び旅」に参画している。



理事
大江 忍
おおえ のぶ

＜経歴＞

1983年名城大学理工学部建築学科卒。一級建築士。2006年、設計事務所と木造専門工務店である有限会社ナチュラルパートナーズを設立、代表取締役として現在に至る。2013年より(一社)職人がつくる木の家ネット 代表。2018年より(一社)伝統を未来につなげる会 専務理事。2018年より愛知産業大学招聘教授。日本建築学会に所属。愛知建築士会会員。

＜活動・研究内容＞

(一社)伝統を未来につなげる会において主たる目標であった「伝統建築工匠の技」がユネスコ無形文化遺産に2020年12月に登録されました。しかし、コロナ禍の最中でもあり、普及活動を自粛していましたが、2021年10月に「伝統建築技術・技能を広めていくために」をテーマにオンライン講演会を開催し、二つの提案をしました。①公共建築に匠の技を②防災対策としての地域の伝統家屋の空家利用について、講演と講演後に参加者による意見交換をしました。また、(一社)職人がつくる木の家ネットにおきまして、前出のオンライン講演会を共同開催すると共に、伝統的構法住宅の普及促進および社会的認知、省エネ法に対する生き残りをかけて、「気候風土適応住宅」の各地域における認定のガイドラインづくりを実施およびそのガイドラインを作成する為の組織づくりをしています。